



スローガン
「幸せ
あふれる
北小」
～私も幸せみんなも幸せ～

はびねす

時津町立時津北小学校
学校だより R7第9号

令和7年10月1日
文責：校長 今井大輔

北小図書館別館「喜楽図書館」オープン

2学期より、北小図書館の新しい拠点となる別館「喜楽図書館」がオープンしました。「喜楽図書館」という名前には、「楽しく喜んで、そして気楽に立ち寄れる場所にしたい」という願いが込められています。

北小図書館（本館）は管理棟2階にありますが、児童棟3階に教室がある5・6年生にとっては、少し遠く、本を借りに行くのが億劫になりがちでした。そこで、5・6年生向けの本を中心に集めた「出張図書館」を試みよう、というのがこの別館の始まりです。貸し出し用のPCや書棚を準備し、蔵書は5・6年生の皆さんに選んでもらいました。開館前日には、利用上の注意を確認した後、自分たちの図書館に置く本を全員で選び、移動させる作業を行いました。皆が本を手に取り、生き生きとした良い雰囲気でした。開館初日の朝は早速、本の貸し出しや、身読書スペースで本を読む姿が見られました。近に本がある環境が整い、これから5・6年生の皆さんの読書量がぐんと上がることが楽しみです。



よりよい集団登校を目指して

全校集会を開き、「集団登校の在り方」について全校で話し合いました。最近、見守り隊の皆様や保護者の方、そして班長さんたちから、「集合時刻が守れない子がいる」「集団から離れて一人で歩いている」「班長の指示に従わず好き勝手に歩いている」といった、集団登校に関するご心配の声が多くありました。そこで、全校児童で集団登校の共通理解を図り、より安全で、より気持ちよく登校できるように改めて指導を行いました。この指導が、今後の登校風景にどのような良い変化をもたらしてくれるか、大変楽しみにしています。ご家庭でも、今一度お子さんと登校の仕方について話合ってくださいと幸いです。

充実した教育実習の一ヶ月間

2学期の始まりから、本校の卒業生でもある、純心大学の鬼塚花音先生が教育実習に来ていました。実は、4月から学習支援として、時折子供たちと関わってくださっていました。約1ヶ月間にわたる実習が終わり、この期間、国語科や体育科、道徳科など、計5本の実習授業を行いました。毎日提出される実習レポートには、北小の先生方から学んだことや子供たちへの熱い思いが綴られており、非常に充実した教育実習になったことがうかがえます。特に、実習に入っていた3年1組の子供たちとの関わりから、多くのことを学んだようです。未来の教育界を担う鬼塚先生を、北小職員一同、心から応援しています。



CSあいさつ運動&交通安全団

秋の交通安全週間に伴い、北小交通安全団による立哨活動とCS（コミュニケーション）運動を実施しました。あいさつ運動当日は金曜日ということで、特に活気があり、子供たち一人ひとりから、いつもにも増す元気なあいさつが聞かれました。



〇〇の秋

「〇〇の秋」と言えば・・・人それぞれでしょうが、学校はやはり「勉強の秋」です。1学期に行われた全国学力・県学力調査では、5・6年生の国語科・算数科・理科において、全て県や全国の平均程度でした。これはあくまでも学年の平均ですので、当然個人差があります。個に応じた学習を工夫し、より力を付けさせていきたいと思います。

ついでに

私の愛車（軽トラック）の運転中は、もっぱら一人の時間である。そんな時のお供に、Apple Musicの「トップ100...日本」を流している。数ヶ月前、そのランキングの中に、あいうえんさんの「貴方解剖純愛歌（死ね）」という、耳を疑うようなタイトルと曲があった。初めて聞いた時は、正直なところ驚いた。曲の中に、「死ね死ね」という言葉がストリートに出てくるのである。歌詞の内容もまた衝撃的で、大好きな人を独り占めにしたいがために、「両目をくりぬいて私のポケットに」「心臓をえぐり取って私のネックレスに」といった過激な表現が並び、そして「死ね死ね」。私を好きじゃないのならば、「死ね死ね」と感情を爆発させている。この「死ね」という言葉が、ポップソングとして多くの若者に受け入れられ、ある種の「時代感覚の変化」と「言葉が持つ重さの希薄化」を感じ、少々恐ろしさすら覚えた。先日、ある研修会に参加した際、現代の子供たちの言葉の問題について耳にした。それは、言葉力の不足から、感情を表現できず、すぐに「死ね」という言葉を発してしまう子供が、あるという話である。外部からの刺激や不快感があった時、本来なら「気持ち悪い」「嫌だ」「腹が立つ」といった具体的な感情を表現すべきところを、一言で「死ね！」と単純に片付けてしまおうとすることだ。実際に本校でも、物にぶつかった際に「痛い」「死ね！」ではなく、その物に向かって「死ね！」と発している子を見たことがある。これは、先に述べたヒットソングの持つ過激さとも無関係ではないのかもしれない。昭和の持つ絶対的な重さやタブー感と、平成・令和の時代の生きる子供たちの言葉に、対する感覚の違いがあるのではないかと考えさせられる。しかし、どのような時代背景や感覚の変化があっても、言葉は人を傷つける刃にもなり得るという事実は変わらない。私たち大人は、子供たちに、自分の気持ちを正しく伝えるための豊かな言葉力を育み、そして相手の心に配慮する言葉の使い方を教えることができる。死ね」という言葉を安易に使わず、自分の感情を「気持ち悪い」「悔しい」「悲しい」など、具体的な言葉で表現できる力を身に付けさせること、これこそが、学校と家庭が連携して取り組むべき、真の「言葉の教育」だと強く感じている。

第2号に続いて今回もペアレントトレーニングを紹介します。今回はステップ1として「望ましい行為」「望ましくない行為」「許しがたい行為」の中でも「望ましい行為」に積極的に目を向けましょう、見つけましょうというものでした。今回はステップ2です。繰り返しになりますがステップ1をクリアしてからこちらの実践に入ってください。

ステップ2 ～してほしい行動を増やすために～

ステップ2の目標はステップ1で見付けたことを子どもに知らせることです。例えば仕事を終え家に帰ると、お子さんがすでに宿題を終わらせていたとします。その時かける言葉は「えらいね。」等ではないでしょうか。これは「望ましい行為」を見つけ、「ほめる」ことです。もちろん「ほめる」ことも有効ですが、他にも見つけた「望ましい行為」を知らせる方法として、

- ・励ます…「がんばれ。」「あと〇問だ、もう少し！」
- ・気付いていることを知らせる…「おっ宿題してる。」
- ・感謝する…「自分でやってるから、助かる～」
- ・興味・関心を示す…「割り算の筆算をしてるのか～」などで実況中継でもOKです。



また知らせる際のポイントとして、

- ・行いをほめる…「教科書ノート出してるね」が〇で「いい子だね」ではない。
- ・タイミング…できるだけ早く（行いの始めや最中、直後に）
- ・目…視線を合わせて（聞いているか確認、そばに呼ぶかそばに行くか）
- ・体…同じ目線で、見下ろさないように
- ・表情…ほほえんで、柔らかい表情で
- ・声の調子…子どもの行為で自分の気持ちがよいことを表すように
- ・ことば…短く、明瞭で、肯定的に。どの行為が嬉しいのか伝える。
- ・効果的な方法を…その子にとってどの方法が嬉しいか



（大袈裟に？静かに？みんなの前で？個人的に？）

- ・皮肉をさける…「教科書ノート出してるね。でもノートはまだだね。」

ついやってしまいがち！

「やっとできたね。もう少し急ぐといいね。」後ろ2つはカット

その他のポイントとして「やり終える前のプロセスにも声かけ」「大変な作業をやりやすくする、スモールステップ化」（漢字終わり→声掛け、算プリ終わり→）なども挙げられています。

上記の・の事項、10～12個ほどできるようになったら次のステップ3へ。なかなか難しい場合はステップ1に戻ってレッツ、トレーニング！